

2022年3月16日

一般社団法人 大学女性協会 会長 加納 孝代

## 声明

私たち一般社団法人大学女性協会は、世界組織の大卒女性インターナショナル（GWI）と共に、ロシアのプーチン大統領が即刻ウクライナ攻撃を中止すること、そしてロシアとウクライナが即刻争いをやめて、対話による解決をはかることを、つよく求めます。

2022年2月24日、国際的なあらゆるルールに反してロシアはウクライナに軍事侵攻しました。ロシアとウクライナの不協和音が以前からあったとはいえ、軍事侵攻は許されるものではありません。刻々届くニュース映像にはウクライナ国内の破壊された幼稚園や学校や病院が映っています。わずかばかりの荷物をもって戦火から逃れようとしている人々の列も爆撃されています。国外に脱出した人が3月12日時点で270万人（その後も日々増加している）という数字に茫然とします。その人々の多くは女性と子どもと老人ですが、夫や父親や息子にあたる壮年・青年男性は、なかには若い女性も、国を死守すると言って国内に残っています。

私たち日本人には、つい77年前の広島、長崎の原爆投下の光景がよみがえります。全世界の人々にとっても、110年前の第一次世界大戦、それに続く第二次世界大戦、その後の数えきれないほどの戦争、紛争、内戦、内乱の姿が浮かんでいることでしょう。皆で守るべき弱者である乳幼児、少年少女、老人、病人が次々に犠牲になっています。彼らを守ろうとしている医師・看護師、教師たちも倒れつつあります。プーチン大統領は、抵抗する者すべてを抹殺し得る核兵器の使用可能性まで仄めかしました。

いま私たちがやらねばならないのは、一人ひとりの権利と自由を尊重するという、とても簡単なことです。人間が人間を大切にすること、とりわけ社会的弱者と言われる人々を守ることを、真っ先に実行すべきです。しかるにプーチン大統領の今回の判断と行動は、ウクライナの人々の人権のみならず、自国内の人々の知る権利、抗議する権利をも蹂躪するものです。

私たちは、ロシアのプーチン大統領が即刻ウクライナ攻撃を中止すること、そしてロシアとウクライナが対話による解決をはかることを、つよく求めます。